

大会長基調講演

司会：鳥山 喜之（東海北陸ブロック理学療法士協議会 代表理事）
（第29回東海北陸理学療法学会 大会長）

〔 理学療法のパテンシャル 〕

高橋 猛

第28回東海北陸理学療法学会 大会長
鈴鹿医療科学大学

日時：11月10日（土） 13:30～14:00

会場：会場 A（第1ホール）



理学療法のポテンシャルティ

高橋 猛

第28回東海北陸理学療法学会 大会長
鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 理学療法学科

理学療法士免許取得者は、凄まじく急増をしている。私は昭和60年(1985年)に理学療法士免許を取得したが、最初の10年間は「希少価値がある」、「就職先もどこだって可能」ともてはやされていた。しかし、今では、高校生に「卒業後就職は大丈夫ですか?」と尋ねられる始末である。そこで本講演では、先輩の偉業・診療報酬の流れ、そして現在の理学療法士を取り巻く医療現場の環境を説明し、理学療法のポテンシャルティをどう高めていくかを述べたいと思う。

先輩の偉業

戦後、世界保健機構(WHO)は、我が国のリハビリテーションに対して近代的技術者が欠如していると指摘した。その後、理学療法士・作業療法士法が公布され、昭和41年(1966年)に183名の理学療法士が誕生した。当時、東海地区には、各県士会はなく、愛知県、岐阜県、三重県の三県が一つになり、27名にて日本理学療法士協会東海支部を結成し、年6回もの研修会を企画していた。昭和44年(1969年)には、第1回東海理学療法士集談会を開催し、その後、本学会大会の前身である東海北陸理学療法士集談会と1年交代にて開催した。そして、昭和49年(1974年)5月、第9回日本理学療法士学会(全国学会)を古川良三大会長の強力な指導のもとに名古屋で開催している。加えて、先人らは後進を育てることににおいても重要性を痛感し、この地域に養成校開設運動を行なったと聞いている。結果、昭和54年(1979年)、国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院が開校した(十五年のあゆみ、愛知県・岐阜県・三重県理学療法士会、1985)。

診療報酬の流れ

昭和56年(1981年)、診療報酬名が運動療法となり、「簡単なもの」・「複雑なもの」と診療報酬の請求が開始され、当時は「複雑なもの」300点(40分間)であったが、その後右肩上がりに上昇し、平成12年(2000年)には「複雑なもの」660点、更に発症後14日以内ならば100点加算可能であった。しかし、平成14年(2002年)「個別療法」、「集団療法」と改定され、「個別療法」1単位250点となり、さらに数年の改定を経て、現在に至っている。

現在の理学療法士を取り巻く医療現場の環境

今、我が国の理学療法士免許保有者は、平成24年(2012年)6月現在の日本理学療法士協会会員数でいうと77,824名となり、ここ10年の間に会員数だけで45,092名が増加した。しかし、その一方で、我が国の病床数は、平成22年(2010年)9月現在で、1,601,476床に対して、10年前は1,648,217床と増加はなく、逆に4万床あまり減少している(厚生労働省調べ)。また近隣職種(鍼灸師・マッサージ師・柔道整復師等)の総入学定員数は16,147名と理学療法士入学定員数13,366名より多い。また、看護師は、特定看護師制度(仮称)により、処方権を持つ立場に回ろうという運動も行っているという。

理学療法のポテンシャルティ

学生時代は、我々は国家資格を取るために非常に努力した。しかし、卒業後の学術活動・理学療法士としての社会的、法的、経済的身分のさらなる拡大・社会への啓発活動について十分に自覚しているだろうか。我々は、近隣の職種と戦える理学療法士となっているだろうか。法律によって守られていることに甘んじてはいないだろうか。皆さんが、先輩の偉業を知り、自分が何をすべきか、理学療法のポテンシャルティすなわち可能性、潜在的な力を再確認し、躍進されるきっかけとなる講演となることを願う。